

報告書〔 8 〕 分析結果及びフローシート

3. 大気試料：揮発性有機物質

(1.ベンゼン 2.トリクロロエチレン 3.テトラクロロエチレン 4.ジクロロメタン)

分析実施機関名		機関コード		国際的な認証の取得 注1)	1. ISO 9001 ~ 9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC17025 (ガ1'25) 4. なし
分析主担当者名		分析主担当者の経験年数	年	分析主担当者の実績 (試料数)	検体

注1) 複数回答可

分析項目	注2) 分析結果 (µg/m ³)	標準偏差 (µg/m ³)	測定回数 (回)
ベンゼン			
トリクロロエチレン			
テトラクロロエチレン			
ジクロロメタン			

分析開始日	月	日
分析終了日	月	日

注2) 有効数字3桁で記入する。なお、2回以上の測定を行った場合は、平均値を記入する。
なお、一旦受領した結果については、訂正があっても受付ませんので、記入間違いや単位間違い等にご注意ください。

< GC / MS 法 >

試料の適量
↓
濃縮部に濃縮
↓
濃縮管の加熱
↓
トラップ管へ再濃縮
↓
トラップ管の加熱
↓
GC/MS

< 分析方法等 >

分析法	1. GC / MS 2. その他 ()
分析時の温度	()
分析時の大気圧	() kPa

< 濃縮等の条件 >

試料量	() リットル
濃縮部	1. 吸着濃縮管 2. 低温濃縮管 3. その他 ()
除湿部	1. あり 2. なし
濃縮部の加熱温度	()
トラップ管の加熱	()
バージガス	1. N ₂ 2. He 3. その他 ()

< 分析条件 >

機器型式 (GC)	メーカー () 型式 ()
機器型式 (MS)	メーカー () 型式 ()
装置型式	1. 単収束 2. 二重収束 3. 四重極 4. イオントラップ 5. その他
イオン検出法	1. SIM法 2. マスクドイオン法 3. その他 ()
カラム型式	メーカー () 型式 ()
カラム形状	内径 () mm、長さ () m、膜厚 () µm
カラム昇温条件	初期 _____ 温度保持 _____ 分 _____ / 分 _____ / 分 最終 _____ 温度保持 _____ 分
キャリアガス条件	1. N ₂ 2. He 3. その他 () () ml/分
試料注入部温度	()
試料注入方法	1. スプリット 2. スプリットレス 3. コールドオンカラム

< 検量線の作成等 >

定量方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 3. の場合：内標準物質：種類 ()、添加量 () ng 注3)
	[内標準物質の種類リスト] 1. トルエン-d ₈ 2. フルオロベンゼン 3. クロロベンゼン-d ₄ 4. その他 ()
標準原ガス	1. 購入 2. 自作 1. の場合：メーカー名 ()

注3) 濃縮部中の量 (ng) を示す。

報告書〔 8 〕（ つづき ）

機関コード	
-------	--

< 測定質量数及び検出下限値 >

項目	質量数	検出限界 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) 注4)
ベンゼン		
トリクロロエチレン		
テトラクロロエチレン		
ジクロロメタン		

注4) 試料中の濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) を示す。

< 検量線の作成等 >

項目	区分	記入欄
ベンゼン	検量線	作成点数 () 範囲 () ~ () 注5) 単位 1. ng 2. その他 最高濃度の指示値 ()
	試料	指示値 ()
	空試験	指示値 ()
トリクロロエチレン	検量線	作成点数 () 範囲 () ~ () 注5) 単位 1. ng 2. その他 最高濃度の指示値 ()
	試料	指示値 ()
	空試験	指示値 ()
テトラクロロエチレン	検量線	作成点数 () 範囲 () ~ () 注5) 単位 1. ng 2. その他 最高濃度の指示値 ()
	試料	指示値 ()
	空試験	指示値 ()
ジクロロメタン	検量線	作成点数 () 範囲 () ~ () 注5) 単位 1. ng 2. その他 最高濃度の指示値 ()
	試料	指示値 ()
	空試験	指示値 ()

注5) 濃縮部中の量 (ng) を示す。

< 分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点 >

濃縮方法について	-----
測定方法について	-----
分析全般について	-----

< 計算式 >

--